

製品に混入・付着した異物の成分を調査する際は、現物をよく観察するとともに、適切な分析手法を選択することが重要です。当センターでは分析装置の選択、結果の解釈など、職員が企業の皆さまと一緒に考えながら対応しています。



製品に異物が混入したようで困っています。

一緒に原因を探りましょう！



ポイント

- **汚れや紛失に注意して保管することが重要です。**
 - アルミホイルで包み、チャック袋に入れる
 - × セロハンテープに貼り付ける
- **異物に関連する情報を集めると早期解決の参考になります。**
 - ・ 発見場所：製造工程／輸送中／使用中 など
 - ・ 発見時期：目視検査／開梱／動作不良／異音／分解時 など
 - ・ 頻度：1点のみ／数％／ロット単位／全数 など
 - ・ 変化点：原材料／工程／環境／メンテナンス など

調査手順のイメージ

①対象物(試料)の外観を観察します。

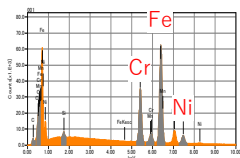
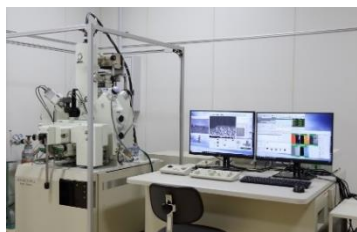
- ・ 形状、大きさ、色、透明感
- ・ 表面状態：腐食の有無 等



デジタルスコープや実体顕微鏡で観察

②外観や関連情報から大まかな材質を予想し、第1段階の分析を行います。

金属や石と予想



【元素分析装置 (SEM-EDS、EPMA等)】

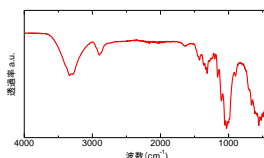
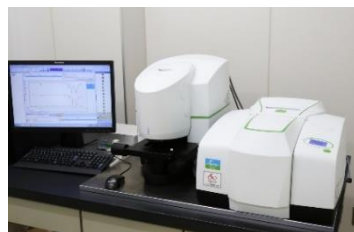
鉄、クロム、ニッケルがあります。ステンレス鋼の可能性が高いです。



活用例 4-1

詳しくは↑をご覧ください。

繊維やプラスチックと予想



【赤外分光分析装置 (FTIR)】

波形を見ると、綿のようですね。衣服から入ったかもしれません。



活用例 4-2

詳しくは↑をご覧ください。